

聖書日課 『からし種』 2022.6.12-6.19

<p>6月12日 (日) ヤコブ 1章</p>	<p>「だから、あらゆる汚れや溢れるほどの悪を素直に捨て去り、心に植え付けられた御言葉を受け入れなさい。この御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます」(21節)。試練に耐えること、ただしくあり続けることがいかに難しいことか。それでも、日々与えられる御言葉によって、生かされ、励まされている。主の言葉に耕されてこの週も歩みたい</p>
<p>13日 (月) ヤコブ 2章</p>	<p>「魂のない肉体が死んだものであるように、行いを伴わない信仰は死んだものです」(28節)。信仰は、神の救いの出来事を確信するだけではない。信じるだけ・ではなく、信じる主イエス・キリストに従って歩むことが信仰をいただいて生きる私たちに勧められているのではないだろうか。キリストに従おうとする祈りが必要なかもしれない。</p>
<p>14日 (火) ヤコブ 3章</p>	<p>「義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです」(18節)。義の実を蒔く人は、平和のうちにその働きを行うと聖書は語る。平和の実を蒔く人たちは、平和な世を想像しながら実を蒔いているのだろう。平和は、どのようなものなのか。主の平和を聖書からいただきながら、私たちも共に祈りたい。</p>
<p>15日 (水) ヤコブ 4章</p>	<p>「あなたがたは、『主の御心であれば、生き永らえて、あのことやこのことをしよう』と言うべきです」(15節)。人の命は、その人自身では決められない。神が生かしてくださるその時間だけ、私たちは、神の働きに仕えることができる。その大切な時間に、何かができるのか、主に倣いつつ、神のために何ができるのかを考えていきたい。</p>

メール配信登録メール [senfkorn.obc@gmail.com](mailto:senfkorn.obc@gmail.com)

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2022.6.12-6.19

<p>16日 (木)  ヤコブ 5章</p>	<p>「あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。喜んで いる人は、賛美の歌をうたいなさい。あなたがたの中で病氣 の人は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を 塗り、祈ってもらいなさい」(13-14節)。祈りと賛美と交わり は主からいただいたもの。キリストにつながる祈りは、人の想 像を超えた道を示してくださる。</p>
<p>17日 (金)  I ペトロ 1章</p>	<p>「人は皆、草のようで、／その華やかさはすべて、草の花の ようだ。草は枯れ、／花は散る。しかし、主の言葉は永遠に 変わることがない」(24-25節)。人の世は移りゆくもの。同じ 時代、同じ時間は一度しかない。けれども、私たちには、希望 を示してくださる主の言葉(聖書)が与えられている。その言 葉は世の始まりから今まで変わることなく、語り続けられている</p>
<p>18日 (土)  I ペトロ 2章</p>	<p>「聖書にこう書いてあるからです。『見よ、わたしは、選ばれ た尊いかなめ石を、／シオンに置く。これを信じる者は、決し て失望することはない』」(6節)。聖書が示す希望は、私たち の目には、つまずきのいし、妨げの石に見えるもの。しかし神 は、その石を選ばれた尊いかなめ石として、私たちに与えてく ださっている。それは、決して私たちに欺かない希望の石</p>
<p>19日 (日)  I ペトロ 3章</p>	<p>「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。 かえって祝福を祈りなさい。祝福を祈るためにあなた方は召 されたのです」(9節)、「心の中でキリストを主とあがめな さい」(15節)。今日、わたしの口から出る言葉が心の中に生き て働いてくださるキリストに基づいた言葉となるように。主日礼 拝から始まる一週間の日々、主の祝福を語る者とされて。</p>